庭園間交流連携
促進計画

宮崎花旅３６５

2019(令和元)年５月
2022(令和４)年５月　協議会名変更

宮崎花旅３６５推進協議会

photo:「エリザベスアンガス章太郎」
宮崎ブーゲンビリア空港のハウスで栽培しているブーゲンビリアの中から
発見された従来品種よりも一回り大きい変種。
新品種として認められ岩切章太郎氏の名前を入れ命名された。

様式	項目	頁
１－１	表紙	―
１－２	取組の将来像（ビジョン）	１
１－３	位置図	２
１－４	計画のテーマ	３
１－５	構成庭園一覧表	７
	１　宮崎ブーゲンビリア空港	７
	２　橘公園	９
	３　県立平和台公園	１１
	４　パークウエイ（阿波岐原森林公園）	１３
	５　市民の森	１５
	６　フローランテ宮崎	１７
	７　英国式庭園	１９
	８　THE LIVING GARDEN（ｼｪﾗﾄﾝ･ｸﾞﾗﾝﾃﾞ･ｵｰｼｬﾝﾘｿﾞｰﾄ）	２１
	９　道の駅フェニックス	２３
	１０　宮交ボタニックガーデン青島	２５
	１１　こどものくに	２７
１－６	その他の取組	２９
	一里山　シバザクラ	２９
	オープンガーデン　サン・フラワー宮崎	３０
	青島ビーチパーク	３１
１－７	実施する事業と実施体制	３２
１－８	具体的な事業一覧表	３３

取組の将来像（ビジョン）

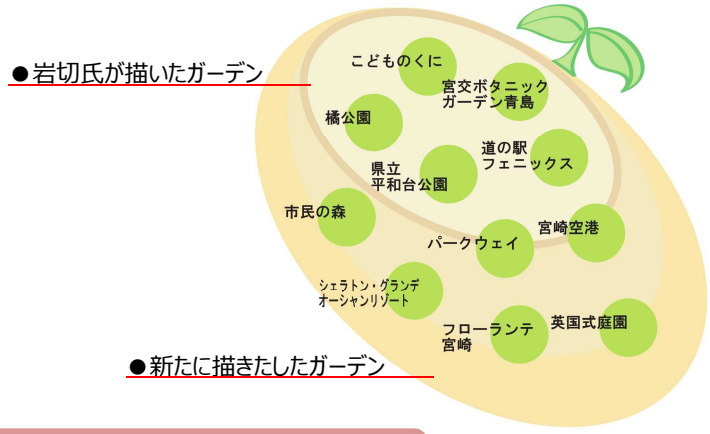
どこまでも澄み渡る空と青い海、豊かな緑と 365 日咲き誇る花々。そんな宮崎の大地をこよなく愛した観光宮崎の父、岩切章太郎。「自然の美・人工の美・人情の美」に象徴される氏のガーデンづくりは、人々の心に深く刻み込まれ宮崎の風土になりました。

岩切氏が蒔いた幾つものガーデンという種は、その志を受け継いだ人々によって大切に育てられ、美しく花開き宮崎の肥沃な大地に新たな種を落としました。

そして、その種は新たな時代のガーデンとなり、今も広がり続けています。

ーそんな宮崎の花の物語を紡ぐ旅「宮崎花旅 365」ー

●岩切イズム第１章「大地に絵を描く」



〔県・市〕

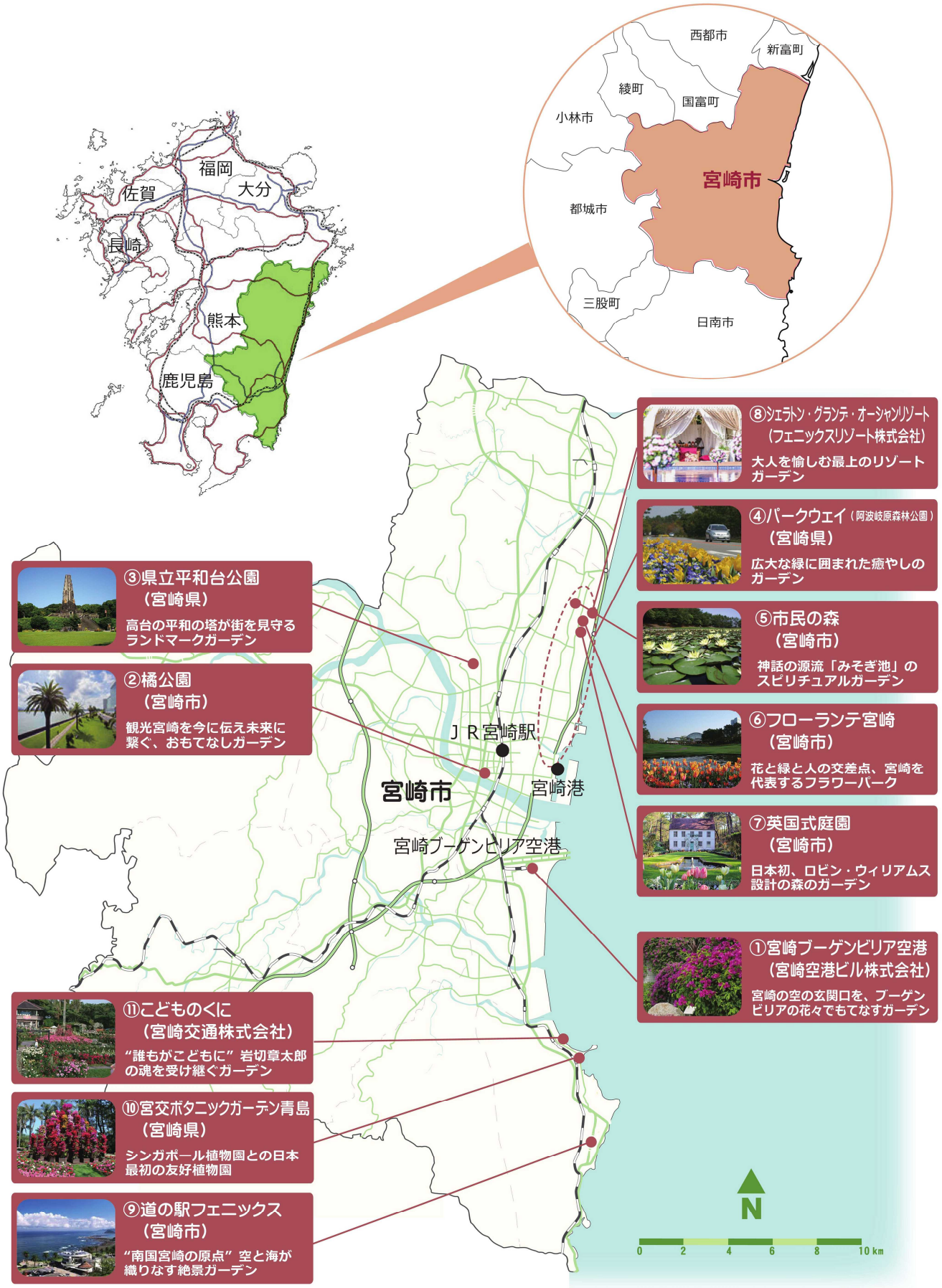
1959 全県公園化構想
1968 第１回フラワーショー
1969 沿道修景美化条例
1984 緑と花をふやす市民運動
1993 宮崎市花のまちづくり公社
1999 全国都市緑化宮崎フェア
2018 沿道修景美化基本計画
2018 美しい宮崎づくり推進条例
2018 オータムフラワーフェス

●岩切イズム第２章「大地の物語を紡ぐ」

（様式１－３）

〔構成庭園の位置図〕

宮崎花旅 365



計画のテーマ（詳細）

「大地に絵を描く」から「大地の物語を紡ぐ」へ

１－１　岩切イズム第１章

どこまでも広がる青い海と空、風にそよぐフェニックスの木陰を楽しみながら散歩するカップル。

日本の一番南でもないのに、「南国ムードあふれる宮崎」というイメージが定着したのは、宮崎交通の創始者である岩切章太郎氏が、「大地に絵を描く」との理念の下、県土の資源を最大限生かした、個性的で先進的な観光地づくりによるものです。

おかげで宮崎は、昭和 30 年代後半から 50 年代初めにかけて、ピーク時には日本中の新婚カップルの 35%にあたる 37 万組が訪れるほどの、新婚旅行のメッカとなりました。後に「岩切イズム」といわれるこの特色ある観光地づくりの肝は、「自然の美」に「人工の美」を添えて磨きをかけ、さらに「人情の美」というおもてなしの心を加えるというものです。

また、この民間の動きに呼応するように、昭和 38 年（1963）宮崎県が「美しい郷土づくり運動」を提唱し、昭和 44 年（1969）には、沿道景観の保全創出と郷土の美化を目的とする「宮崎県沿道修景美化条例」を全国に先駆けて制定しました。宮崎市も昭和 59 年（1984）「まちに緑と花をふやす運動」を提唱し、平成 5 年（1993）には、「宮崎市花のまちづくり基本計画」を策定、市民総参加による「世界に誇れる花のまち・みやざき」づくりが進められました。

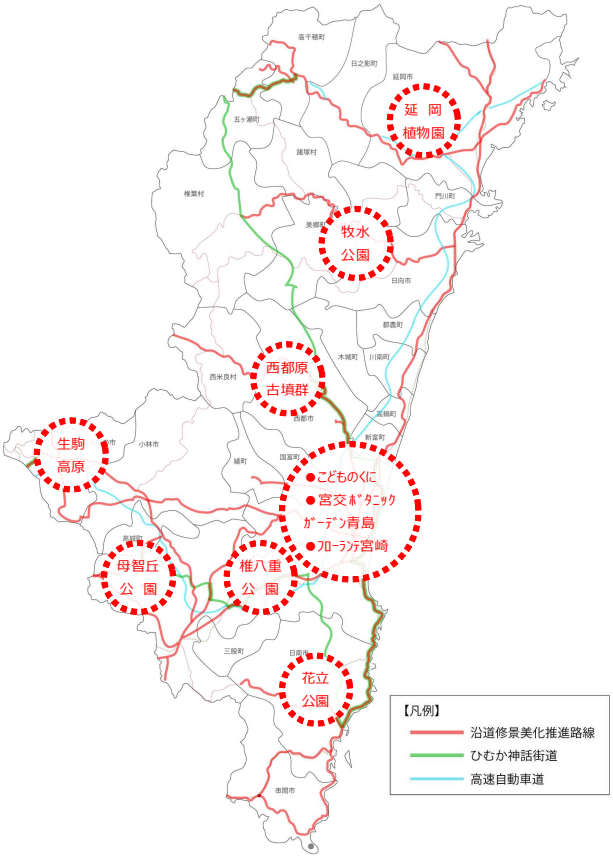
１－２　県民に息づく花と緑への愛着

宮崎の南国情緒あふれる景観やガーデンは、このように民間の先駆者と行政との強力なタッグによって築かれたもので、今では宮崎の貴重な緑のストックとなっています。

花の宮崎を県内外に紹介する「宮崎フラワーショー（後にフラワーフェスタに改称）」が、昭和 43 年（1968）から平成 23 年（2011）までの、実に 44 年の長きにわたって開催されたことは、宮崎県民の花と緑に対する愛着を示すものです。これは平成 11 年（1999）の「都市緑化フェア」の成功によって一つの結実を迎え、多くの花のボランティア団体が生まれています。

その後、花と緑づくりの遺伝子は、「花旅みやざき」と銘打つ各地での取組に受け継がれ、１年を通じて行なう、産業や文化を含めた PR 活動となりました。

「花ボラネットみやざき」も、その役割を担って活動しています。



県全体で開催されたフラワーフェスタ（2011 当時）

２－１　岩切イズム第２章に向けて

岩切章太郎氏のまちづくりの理念は、今では宮崎県民のアイデンティティとなり、各地のガーデンづくりやボランティア活動となって息づいていますが、これからの人口減少社会や社会保障費の増大等の諸課題に直面するとき、花と緑の力が、その課題を解く鍵になるものとして見直されています。

私達は、このガーデンツーリズムの取組を「岩切イズム第２章」と称し、託された宮崎固有の優れたストックを最大限に活用し、これらの社会の諸問題に対処していくことが重要だとおもいます。

先人によって「描かれた絵」から「物語を紡ぎ」、それを“未来につながる普遍の宮崎ブランド”として確立し、宮崎の人々の誇りあるコミュニティの再生と、持続可能な地域の活性化につなげていきたいと考えています。

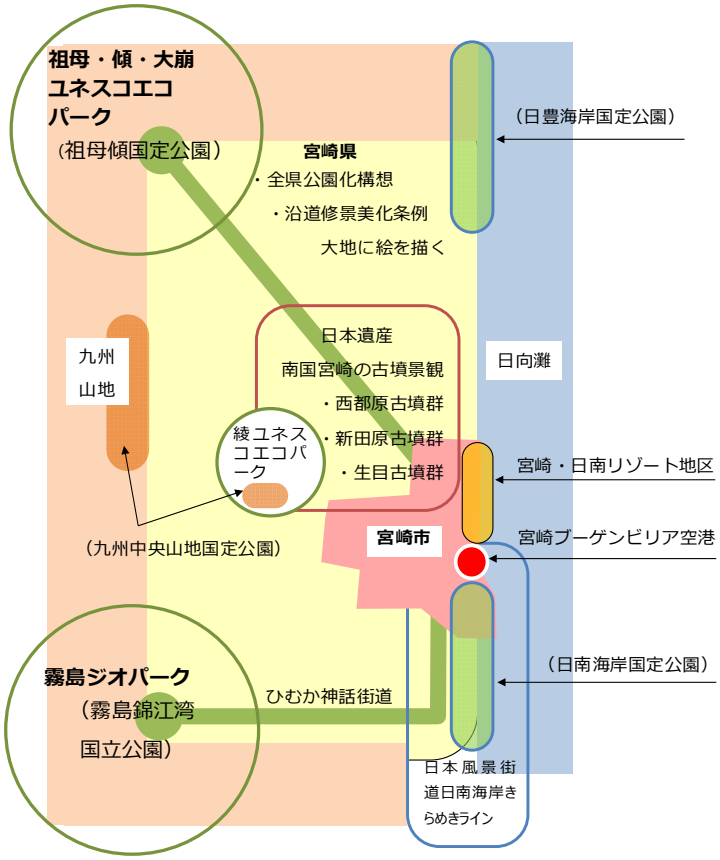
２－２　宮崎固有の豊かな緑

宮崎県は、周囲を九州山地と日向灘に囲まれており、かねてから「陸の孤島」と言われてきました。南北に長い県土には、地域毎に自然と人々の営みが織りなす特色ある伝統文化が育まれ、魅力的な緑の地域資源として現代に継承されています。

その意味で、県全体が Garden の語源である『囲われたエデン』です。

また、宮崎の緑のポテンシャルはとても高く、数々の観光の盛衰を経験して未だその根源的魅力を失っていません。

私達は、この魅力を未来につながる新たな「価値」として生かしていくことが大切だと考えています。



宮崎県の緑の資源

２－３　宮崎に咲く多彩なガーデン

（取組のスタートアップガーデン）

現代のストレス社会と連動するように、自然への回帰を求める動きが宮崎でもみられます。「阿波岐原森林公園」の森がスピリチュアルスポットとして紹介され来園者が増加したり、かつての新婚旅行ブームの中心「青島」においては、新たな世界観を提案する「青島ビーチパーク」が、若者を中心に人気を集め、移住者が増加しています。その他、オーガニックフェスタやヨガイベントも常に盛況となっています。

宮崎の「緑」は、このような要求に応える素質を有しており、各構成庭園は立地する地域の特性を尊重し、未来へと繋がる価値として個性を際立たせると共に、連携して効果を発揮することが重要だと考えています。先ずは宮崎市内のガーデンから取組をスタートし県全体に広げていきます。

２－４　ガーデンツーリズムによる地域の活性化

（１）個性の磨き上げ

・各構成庭園等は、地域特性を尊重し個性を一層輝かせるよう特色ある施設づくりを施します。

（２）連携交流の促進

・各ガーデンは、将来ビジョンを共有し、個々の強みを発揮すると共に、機能を補完し合い相乗効果を創出します。

・地域資源（食、歴史、スポーツ、アクティビティ等）と連携し、新たな価値を創造します。

・需要と供給それぞれの活動を喚起し地場産業の活性化と雇用の創出を図ります。

（３）持続性を担保する仕組づくり

・交通事業者等との連携を強化します。

・収益を、ガーデンづくりに還元できる仕組をつくります。

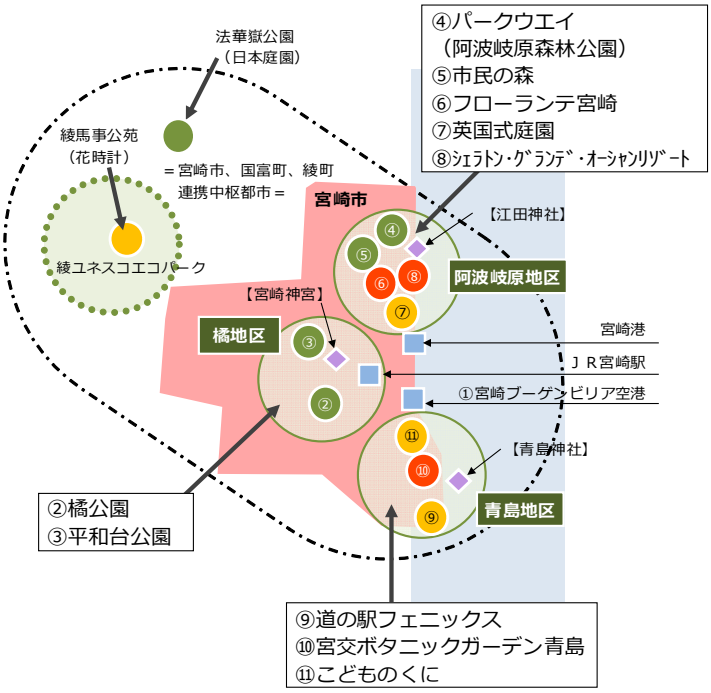
・持続的に発展可能な、体制づくりと人材育成を行います。

（４）進め方

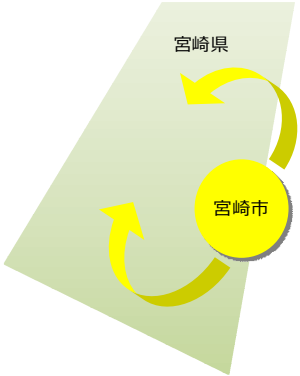
・宮崎市から取組をスタートし、県内に広げていきます。

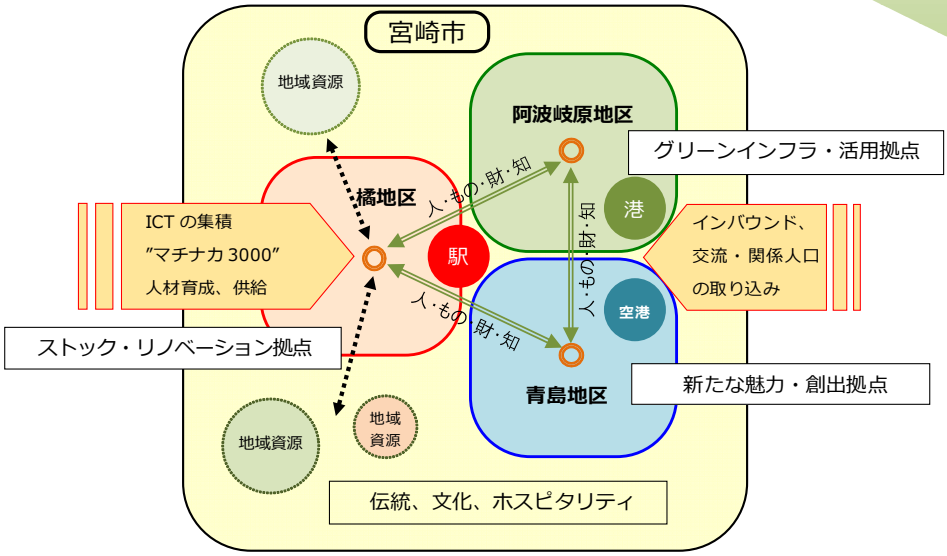
・他の多様なツーリズムと連携し、効果の促進を図ります。

・多様な主体と連携し、新時代のフラワーフェスタ開催を目指します。



宮崎市のガーデン





地域活性化のイメージ（宮崎市）

「観光宮崎の父」岩切章太郎

明治 26(1893) 年 5 月 8 日、宮崎県大淀村(現在の宮崎市)に 9 人兄弟の長男として生まれました。

幼少期を宮崎で過ごし、東京帝国大学法学部政治科を卒業後、３年間だけの約束で住友総本店に就職。その後自分の意思を通して宮崎へ帰郷、大正 15(1926)年４台のバスで宮崎市街自動車株式会社(宮崎交通の前身)を創立しました。

昭和 6 年(1931)年には定期遊覧バスを開始。後に全国に名をはせることになる観光バスガイドが初登場、宮崎の観光開発の第 1 歩を踏み出しました。

その後、日南海岸にフェニックスを植栽、こどものくにや橘公園などを次々と開園し「大地に絵をかく」夢を実行して、新婚旅行のメッカ宮崎ブームをつくり出しました。

～岩切氏の宮崎への想い～

「南方へのあこがれといっても、椰子やフェニックスが茂っていているというだけで観光価値が上がるのではない。この南方的な樹木の景色にそえて、美しいプロムナード（遊歩道）やすばらしいホテルやレストランなど近代的設備も完成され、すべてが一つの美しい観光的雰囲気に融合され統合された時、はじめて全世界の人々の心を魅了する力が生まれるのである」

「南国日向はこれでいいか」

新婚カップルでにぎわうこどものくに

観光バスが連なる日南海岸
多いときには 70 台ものバスが並んだという。

「宮崎の美しい自然を、少しでもより美しくするように、もし私のまずい絵が宮崎の美しい自然が汚されたら、それこそ県民に対して全く申しわけないことになると考えて、私の力の限りの心遣いをしてきたつもりである。大地にかく私の絵はまだ完成していない。私は今後も生きる限り、描き続け、描き足していきたいと思うのである」

「大地に絵を描く」

フェニックスドライブイン
（現在の道の駅フェニックス）

「宮崎に岩切あり」とその見識と手腕は中央でも高く評価され、地方バス会社の社長としては異例の国鉄総裁への候補にあげられたり、当時の岸首相からは全日空社長就任への直接説得されたこともありましたが、「私は宮崎に夢（大地に絵を描く）を抱いて帰った男です。その夢が実現するまでは宮崎を離れません。」と断った、というエピソードが残っています。

（様式１－５）

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園の名称	みやざき　くうこう 宮崎ブーゲンビリア空港	構成庭園の 所在地	宮崎市大字赤江
1	構成庭園の概要	 宮崎を訪れる人びとをもてなすブーゲンビリア 第 26 回「全国花のまちづくりコンクール」国土交通大臣賞受賞 まるでおしゃれなカフェ 美しい花々がもてなす搭乗待合室 「目指せ 2002 年！宮崎空港発 みやざきブーゲンビリア植栽プロジェクト」 2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、空港の愛称「宮崎ブーゲンビリア空港」の浸透を図るため、平成 27 年度より県内にブーゲンビリアの植栽を行う活動を実施しています。ブーゲンビリアは宮崎空港内ハウスで挿し木により育成し、無償で各市町村に提供しています。 《概要》 開園面積　176.6 ha 入園料金　無料 公開時期　通年 施設管理者　宮崎空港ビル株式会社 年間入園者数　約 31,780,000 人 プロジェクトでの植栽の様子 ブーゲンビリアによるおもてなしが 空港から県内に広がっています。 初代社長の岩切章太郎氏の「おもてなしこそが最大の観光資源」との想いを継承し、日本一のおもてなし空港を目指す宮崎空港。平成 28 年度には、第 26 回全国花のまちづくりコンクールで国土交通大臣賞を受賞しました。 ターミナルビル入り口の「鬼の洗濯板」をモチーフに花々で彩る広場や、圧倒的なボリュームを誇るブーゲンビリアの植栽に加え、搭乗口や待合室、トイレの中までもをブーゲンビリアをはじめとする生花で飾るなど、「南国リゾートらしい」空間が、宮崎を訪れる人びとをもてなします。

1	計画のテーマでの位置づけ	 正面玄関を彩るブーゲンビリア ６月が一番の見頃となります。 青島と鬼の洗濯板の レプリカがお迎えする 「ウェルカム広場」 宮崎市・宮崎空港ビル(株) 共同花育プロジェクト「親子でつくる ブーゲンビリアの盆栽づくり講座」 グリーンキーパーによる 講座が大好評です。 空港内で生産されている ブーゲンビリア 宮崎空港ビル初代社長でもある岩切章太郎氏が大好きだったブーゲンビリア。昭和 40 年頃から空港をはじめ県内各地に植付を行ってきましたが、気候風土が合わずなかなか育ちませんでした。 ところが、岩切氏が亡くなられる前、病床で「夢で観音様にお逢いしてブーゲンビリアの事を頼んだら「任せておきなさい」と言われたから、これから心配せんでいいぞ。」と社員に明かされたことがありました。 その後、平成 2 年に宮崎空港新ターミナルビルを建築した際に、岩切氏の想いを受け、玄関口や周辺にブーゲンビリアを植栽したところ、不思議なことに真冬以外は年間を通して見事に花をつけるようになりました。 宮崎空港ビル(株)は、現在も岩切氏の志を引き継ぎ、花であふれる宮崎づくりを地元の人々と共に行なっていくため、毎年ブーゲンビリアのプレゼント会（500 鉢）を実施するほか、県内各地の市町村と共同でブーゲンビリアの植栽活動も続けています。 また、空港周辺の企業や行政と協働で、空港周辺道路の植栽ボランティア活動等にも取り組んでおり、宮崎の玄関口として宮崎ならではのおもてなしを行い続けています。

（様式１－５）

構成庭園一覧表

2	ふりがな 構成庭園の名称	たちばなこうえん 橘 公園	構成庭園の 所在地	宮崎市松山２丁目１－１
	構成庭園の概要	 雄大な大淀川沿いに広がる橘公園 《概要》 開園面積　2.0 ha 入園料金　無料 公開時期　通年 施設管理者　宮崎市 年間入園者数　－　人 ブーゲンビリアが木陰をつくるベンチ 宮崎市中心部をゆったりと流れる大淀川沿いに、長く大きな葉を陽光がまぶしく照らすフェニックスの並木道が続き、その足元には、ブーゲンビリアや彩り豊かな草花が一年を通して咲き乱れる、南国情緒漂う観光客や市民の心を和ませもてなす公園です。 また、全長 700mの園内に整備された遊歩道沿いにはロンブルも設置され、文豪川端康成が書き下ろしたNHK 朝の連続テレビ小説「たまゆら」の舞台にもなった、雄大な景色を気軽に楽しめるスポットとなっています。		

2	計画のテーマでの位置づけ	 市街地玄関口のおもてなし花壇 フェニックス並木を彩る ブーゲンビリアと草花 文豪川端康成も愛した大淀川の夕日 昭和 29 年、土地区画整理で県と建設省（当時）が河岸公園化を決定した際、宮崎交通株式会社の岩切章太郎氏らがヨーロッパにならって河畔沿いに公園を作ろうと提案を行い、フェニックスの植栽や遊歩道を整備し寄贈された公園です。 公園のシンボルの青と白、赤と白のストライプ模様のテント「ロンブル」は、当時流行り始めたカメラのカラーフィルム化に合わせて、フェニックスの緑とカラフルなロンブルで景色に彩りを与えることで、この場所で宮崎に訪れた記念写真を撮ってもらいたい、との岩切氏の想いが込められています。 現在も、市民の散策コースとしてはもちろんのこと、市内を訪れた観光客の夕涼みスポットとしても人気の高いガーデンです。

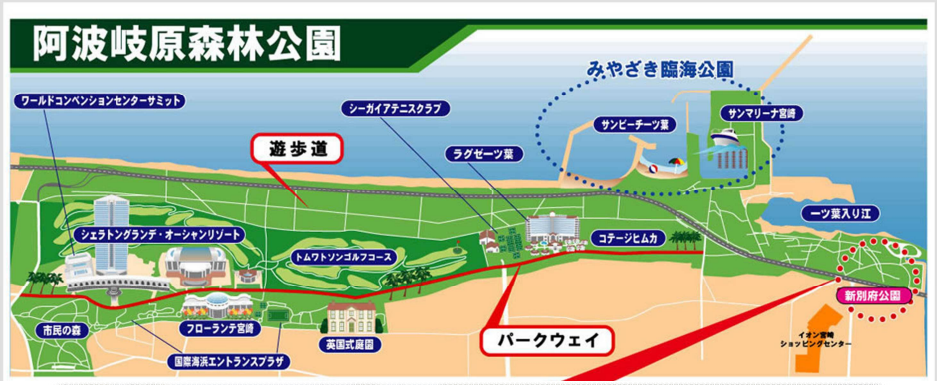
（様式１－５）

構成庭園一覧表

3	ふりがな 構成庭園の名称	けんりつへいわだいこうえん 県立平和台公園	構成庭園の所在地	宮崎市下北方町
	構成庭園の概要	 《概要》 開園面積　68.8 ha 入園料金　無料 公開時期　通年 施設管理者　宮崎県 指定管理者　(株)馬原造園建設 年間入園者数　47,700 人 平和の塔を彩る春花壇 《主なイベント》 各種ワークショップ（通年） ・フラワーアレンジメント、ハーバリウム教室 ・寄せ植えなど各種ガーデニング教室 平和台公園マーケット（年２回） 市街地北西部の丘陵地に位置し、宮崎市街地の眺望が臨める平和台公園は、ランドマークとなっている「平和の塔」を中心とした緑豊かな公園です。 園内には、オオシマザクラやエドヒガン、ソメイヨシノ、ヨウコウザクラなどの多種な桜をはじめ、一年を通して花々が彩り、アスレチック広場をはじめ、運動広場、はにわ園、散策園路や展望台も整備され、幅広い年代の人々の憩いの場となっています。		

３	計画のテーマでの位置づけ	 桜と草花の共演 紅葉する池の中のラクウショウ はにわ園を彩るサザンカ 昭和 15 年に「紀元 2600 年記念事業」として建設された「平和の塔」を中心とする緑深い高台一帯を、昭和 37 年都市公園として開園しました。 当公園は昭和 39 年、東京オリンピックの聖火リレーの第 2 スタート地点となった事でも知られています。 当公園は、一年を通した花のおもてなしを提唱した岩切章太郎氏の理念に基づき、昭和 43 年より 44 年間続けられ、県内各地で宮崎の春を彩った「みやざきフラワーショー」のスタート会場でもありました。 現在でも、園内各所の季節を通した花々が、訪れる人びとを癒します。

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園の名称	パークウェイ （阿波岐原森林公園）	構成庭園の所在地	宮崎市新別府町上和田１３３６－１
4	構成庭園の概要	 春花壇のチューリップとビオラの共演 《概要》 開園面積　390.9 ha 公開時期　通年 施設管理者　宮崎県 指定管理者 （一財)みやざき公園協会 初春のベニバナトキワマンサク 宮崎市街地の東部・日向灘に面する一ッ葉海岸に位置する阿波岐原森林公園は、風光明媚な白砂青松の地として有名で、敷地内の数々の施設を結ぶパークウェイは公園のシンボルです。 宮崎のアイデンティティー、沿道修景の志を受け継ぎ、沿道のフェニックスやイペーをはじめ四季折々の花が、訪れる人びとを宮崎ならではの風景でお出迎えします。		

４	計画のテーマでの位置づけ	 夏花壇の主役　カンナとコリウス 夏の訪れを告げるサンゴシドウ 真冬の松林とスイセン 《沿革》 昭和３２年　「阿波岐原森林公園」を広域公園に決定。 昭和６１年　「阿波岐原森林公園」を開設。 昭和６３年　我が国第一号のリゾート指定を受け、パークウェイや遊歩道がシーガイアとともにグランドオープン。 美しく広がる広大な松林の中に、観光施設や国際リゾート機能を持つホテルなどを、パークウェイや遊歩道でつないだ阿波岐原森林公園は、観光宮崎の父「岩切章太郎」氏が提唱した「自然の美」「人工の美」「人情の美」の３つの理念を具現化したもので、今もなおその魅力が多くの人々を魅了し続けている、上質なおもてなし空間です。

構成庭園一覧表

5	ふりがな 構成庭園の名称	市民の森（しみんのもり）	構成庭園の所在地	宮崎市阿波岐原町産母１２８
	構成庭園の概要	 花しょうぶまつり（5～6 月） 広大な園内には、160 種 20 万本を誇るはなしょうぶ園をはじめ、アジサイの遊歩道や松林の中に神秘的にたたずむみそぎ池のスイレン、ツバキや梅園のウメなど、四季を通して花々を楽しむ事ができるスポットがあり、多世代でゆっくりと楽しむことのできる憩いのガーデンです。 また毎年 5 月中旬～6 月上旬にかけて行われる「はなしょうぶまつり」には、県内外から多くの人が訪れます。 《概要》 開園面積　29.3 ha 入園料金　無料 公開時期　通年 施設管理者　宮崎市 指定管理者 (一財)みやざき公園協会 年間入園者数　224,000 人 《主なイベント》 梅まつり（2 月） 花しょうぶまつり（5 月～6 月） イペープロジェクト （イペー苗木プレゼント会）（4 月）		

5	計画のテーマでの位置づけ	 早春を告げる梅園 ライトアップに浮かび上がるハナショウブ 初夏の神秘的な風景 みそぎ池のスイレン 昭和 46 年に明治 100 年記念事業の一環として阿波岐原公園内に整備されました。 ３６５日園内の各所で季節の花々を楽しむ事のできる市民の森は、まさに岩切章太郎氏が目指した花で彩りを添える宮崎ならではのおもてなしガーデンとして、神秘的な雰囲気のなか、訪れる人びとに癒やしを与え続けています。

構成庭園一覧表

<table>
<tr><td rowspan="2">6</td><td>ふりがな
構成庭園の名称</td><td>フローランテ宮崎（みやざき）</td><td>構成庭園の
所在地</td><td>宮崎市山崎町浜山４１４－１６</td></tr>
<tr><td>構成庭園の概要</td><td colspan="3">

ガゼボを彩るチューリップセンセーション

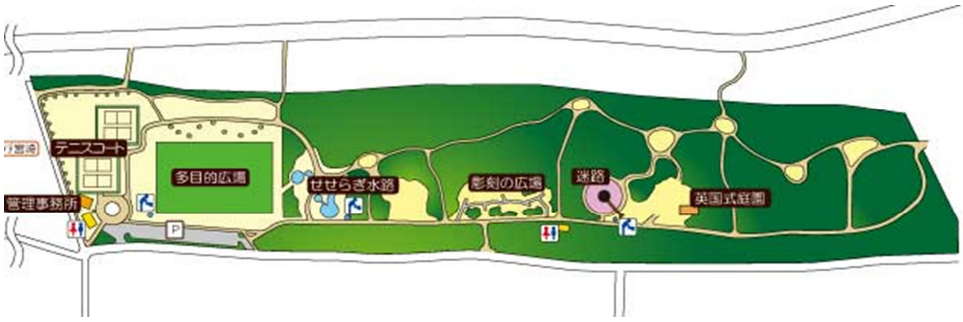
《概要》
開園面積　5.1 ha
入園料金　大人 310 円
子供 150 円
公開時期　通年
施設管理者　宮崎市
指定管理者
宮崎市フェニックス自然動物園管理株式会社
年間入園者数　325,000 人

《主なイベント》
春のフローラル祭（3 月～5 月）
秋のフローラル祭（10 月～11 月）
花と緑の各種体験講座（通年）

園内には、一年を通して青々とした芝生広場が広がり、３６５日に咲き乱れる花々を引き立てます。また、テーマ別の庭の見本園なども充実しており、身近な花の楽しみ方を提案しています。
「春のフローラル祭」では、全国の品評会でも名だたる成績を収める宮崎コチョウラン展や全国的にも有名な宮崎のラナンキュラス育種家「綾園芸」オリジナルの「ラックス」ガーデンの他、チューリップやバラ、バウンス、ヒマワリなど、温暖な気候とその風土に培われてきた盛んな宮崎の花卉園芸が生み出す花々が、宮崎の春を華やかに演出します。
その他、お花屋さんによるフラワーレッスンやマルシェ、様々な展示も行われます。
「秋のフローラル祭」では、温暖な気候の宮崎ならではの、秋に咲き誇る花々を楽しむ事ができます。
</td></tr>
</table>

6	計画のテーマでの位置づけ	 春のフローラル祭に咲きほこるチューリップ 宮崎生まれの「ラックス」ガーデン アトリウムを彩る コチョウラン 岩切章太郎氏が志した、365 日花のある観光地づくりの理念を継承した阿波岐原森林公園の一部にあり、平成 11 年に開催された「第 16 回全国都市緑化みやざきフェア」の主会場として整備された後、平成 12 年にオープンしました。 圧倒的な美しさを誇る花壇の一部は、ボランティアの会や市内で活動を行うオープンガーデンのメンバーによる手入れも行われています。 岩切氏の掲げたおもてなしの心を広げる市民交流の場として、花と緑の魅力を発信し続けています。

構成庭園一覧表

7	ふりがな 構成庭園の名称	えいこくしきていえん 英国式庭園	構成庭園の 所在地	宮崎市山崎町浜山４１４－１
	構成庭園の概要	 春のフラワーガーデンショー 《概要》 開園面積　0.2 ha 入園料金　無料 公開時期　通年 施設管理者　宮崎市 指定管理者 (一財)みやざき公園協会 年間入園者数　43,000 人 《主なイベント》 春のフラワーガーデンショー （3 月～5 月） 秋のフラワーガーデンショー （10 月～11 月） 松林の中にひっそりとたたずむ英国式庭園。まるで絵本の世界のようなこの場所は、イギリスのトップガーデンデザイナー、ロビン・ウィリアムス氏が日本で初めて設計・監修を行ったものです。 中央にあるガーデンハウスを囲む庭は、フォーマル、シーサイド、コテージ、メドゥの４つの異なる顔を持っていて、四季ごとに違った表情を見ることができます。 また、ガーデンハウスはカフェになっており、紅茶やケーキをお供に、ゆっくりとした英国式時間を楽しむことができます。		

7	計画のテーマでの位置づけ	 コテージガーデンを彩るチューリップ 初春のメドゥガーデン 秋のサルビアガーデン ガーデンハウスを彩るつるバラ 阿波岐原森林公園の一部として、平成 11 年に開催された「第 16 回全国都市緑化みやざきフェア」の主会場の一部として整備された後、平成 12 年にオープンしました。 当初は都市緑化フェアの期間中のみの展示を想定してつくられましたが、あまりにも魅力的な英国式庭園であったため、存続してほしいとの声がわき上がり、急遽計画を変更して常設の庭園として残すこととなり現在に至ります。 花を愛し庭を愛する宮崎の風土が守り育てている、上質な癒やしのガーデンです。

（様式１－５）

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園の名称	ざ　りびんぐ　がーでん THE　LIVING　GARDEN	構成庭園の 所在地	宮崎市山崎町浜山
8	構成庭園の概要	 阿波岐原森林公園内にある 上質なおもてなし空間 《フェニックス・シーガイア・リゾート内 「ＴＨＥ　ＬＩＶＩＮＧ　ＧＡＲＤＥＮ」概要》 開園面積　135.2 ha（リゾート全体） 入園料金　宿泊者専用ガーデン 公開時期　通年 施設管理者　フェニックスリゾート株式会社 年間入園者数　　－　人 シェラトン・グランデ・オーシャンリゾートは九州一の高さを誇る４３階建ての超高層ホテル。周りを取り囲む阿波岐原森林公園の緑とどこまでも広がる太平洋という雄大なロケーションと、それを楽しんでもらうための空間演出にこだわり抜いた、おもてなしの最高峰。その中にある、宮崎を訪れ宿泊した方限定のおもてなし空間の「THE LIVING GARDEN」は、大人を愉しむ水辺のリビングをコンセプトに、美しい緑と花々に囲まれた水辺のソファでピクニックを愉しみながらゆったりとした時間を過ごしたり、水辺に浮かび上がる神秘的な夜景を眺めたり、、、。まるでリビングみたいに寛げる自分だけのリゾート空間です。 春には“春のガーデンパーティー”をテーマに、華やかな草花で彩られたデッキや水上花壇など、シーガイアならではの彩り豊かな演出と合わせて、フラワーマーケットやフラワーワークショップ、フラワーガーデン･コンサートなど美しいの花々に囲まれたスペシャルな時間を楽しめます。		

8	計画のテーマでの位置づけ	 水辺のリビング　春のガーデンパーティー エントランスを彩るヤシと花々 花々に囲まれた水辺のガゼボでの贅沢時間 とびっきりのくつろぎの時間を提供 平成６年に、かつて岩切章太郎氏が築き上げてきた「観光県・宮崎」の復興を目指し、総合保養地域整備法（リゾート法）の第１号指定である「宮崎・日南海岸リゾート構想」の中核施設「宮崎シーガイア」として、世界最大級の室内プール「オーシャンドーム」や世界的大会の開催されるゴルフコース、国際コンベンションセンターなどとともに開業しました。 その後、スターウッド・ホテル＆リゾートの傘下に入り、シェラトン・グランデ・オーシャンリゾートに改称。 雄大なロケーションや一年中穏やかな気候ならではの南国リゾート体験など、ここ宮崎ならではの特別なおもてなしを味わえる場所として、今なお進化を続けています。

構成庭園一覧表

9	ふりがな 構成庭園の名称	道の駅（みちのえき）フェニックス	構成庭園の所在地	宮崎市大字内海３８１番地１
	構成庭園の概要	 雄大な太平洋を見下ろす 道の駅フェニックス 《概要》 開園面積　6.0 ha 入園料金　無料 公開時期　通年 施設管理者　宮崎市 指定管理者　フェニックス運営株式会社 年間入園者数　512,000 人 日南海岸の入り口「堀切峠」に近接し、敷地からは眼下に波状岩「鬼の洗濯板」や雄大な太平洋が広がる絶景が楽しめます。 広々とした敷地内には、サンゴシドウやデイゴ、ブーゲンビリアをはじめとする多くの亜熱帯植物が植えられており、南国情緒たっぷりの雰囲気を愉しみながら散策を楽しめます。		

９	計画のテーマでの位置づけ	 つい車を止めて立ち寄りたくなるスポット 宮崎の夏の風物詩 サンゴシドウ 露地植えのポインセチア ストレリチアやメラレウカなど宮崎ならではの花々がお出迎え 昭和４０年につくられた「道の駅フェニックス」の前身「フェニックスドライブイン」は、宮崎空港から日南市の鵜戸神宮までを繋ぐ間の観光地の一つとして、新婚旅行ブームには観光地のメッカとなりました。 日南海岸沿いの道路が直線化され、海側と山側にできた新たな敷地を、宮崎交通が購入してつくられましたが、通常であれば、海側の景色のよい場所に建設するドライブインを、岩切章太郎氏の「日南海岸の美しい景色を一企業が独占してはならない」との考えにより、海側にはフェニックスが植えられ、山側にドライブインが建設されることとなったものです。 加えて、フェニックスを植栽し、これを額縁に見立てて風景を切り取って見せるという手法を用いるなど、岩切章太郎氏の景観づくりの想いが詰ったスポットになっており、この雄大な風景を楽しみに訪れる人が絶えません。

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園の名称	みやこう 宮交ボタニックガーデン青島（あおしま）	構成庭園の所在地	宮崎市青島２丁目１２－１
10	構成庭園の概要	 一年中青い芝生とヤシが引き立てる花壇の花々 《概要》 開園面積　2.3 ha 入園料金　無料 公開時期　通年 施設管理者　宮崎県 指定管理者 （一財)みやざき公園協会 年間入園者数　355,000 人 《主なイベント》 春のフラワーショー（3 月～5 月） ブーゲンコレクション（５月） 秋のフラワーショー（10 月～11 月） 真冬のフラワーショー（１月～２月） ブーゲンビリア管理講習会等（通年） 青島の入り口に位置する宮交ボタニックガーデン青島は、高く突き抜ける青い空にそびえる数々のヤシの林と一年中青々とした一面に広がる芝生が、シンプルでフォーマルな花壇を引き立て、まるで宮殿の庭園を思わせるような南国ムードたっぷりの植物園です。エキゾチックな異空間が、青島を訪れる人々を、長年おもてなししています。 高さ 15mの大温室はブーゲンビリアの回廊をはじめ、年間を通して亜熱帯の花々を楽しむ事ができるほか、世界三大花木のカエン、ボクやホウオウボク、ジャカランダや、樹齢１００年の県内最古のマンゴーの大木も楽しむことができる「トロピカルフラワーガーデン」となっています。		

10	計画のテーマでの位置づけ	 真冬のフラワーショー シンガポール植物園との姉妹植物園50周年を記念して贈られたマーライオン 高さ4mのボリューム満点のブーゲンマウンテン ビロウをはじめとする亜熱帯植物が自生する青島は、昭和27年に「青島亜熱帯植物群落」として国の特別天然記念物に指定され、北半球最北の亜熱帯植物群落として知られてきました。その学術研究や自然教育の場として亜熱帯植物園が開園しました。 昭和40年の開園当初より、ブラジルやアルゼンチンなどから亜熱帯植物の種子や苗木を譲り受け、宮崎の気候風土に根付かせる試験や研究を行い、岩切章太郎氏が行政と連携して進めてきた沿道修景における宮崎県の南国イメージづくりにも大きく寄与してきました。 また、昭和40年の開設と合わせて、ユネスコ世界遺産にも登録されたシンガポール植物園と姉妹植物園の締結を行い、それ以来、技術者の派遣や植物の交換などの交流も続けてきています。

構成庭園一覧表

	ふりがな 構成庭園の名称	こどものくに	構成庭園の所在地	宮崎市青島１丁目１－１
11	構成庭園の概要			

《概要》
開園面積　17.0 ha
入園料金　無料
公開時期　通年
施設管理者　宮崎交通株式会社
年間入園者数　　－　人

《主なイベント》
春バラ祭り（4 月～5 月）
秋のバラ祭り（10 月～11 月）

バラと共に風にそよぐ草花

園内には、椿園やバラ園をはじめ、亜熱帯のジャングルのような芭蕉谷、季節を彩るヒカンザクラやアジサイロードなど、宮崎の自然を活かした心地よい空間が広がり、「自然と遊ぶ自遊空間」をコンセプトに幅広い世代に楽しまれています。

こよなく花を愛した岩切章太郎氏が想いを込めたゾーンの一つであるバラ園は、現在、ガーデナーの源香さんを中心に、県外にもメンバーを持つ「ときどきはなくらぶ」のボランティアの皆さんの手により美しく管理され、おしゃれなカフェやとともに訪れる人びとに癒やしの時間を提供しています。

また、宮崎生まれのラナンキュラス「ラックス」などを楽しめるピクニックガーデンも人気で、時を経て多くの人々に岩切氏の理念が熱く受け継がれる、永遠のおもてなしガーデンです。

11	計画のテーマでの位置づけ	 200 種 2,500 株のバラが咲き誇るバラ園 園内で摘まれた花でのブーケやスワッグ作り 岩切章太郎氏の想いを受け継ぎバラ園を守り育ているガーデナーの源香さんと「ときどきはなくらぶ」のみなさん 真夏のピクニックガーデンにゆれるカンナと草花 昭和 14 年、観光宮崎の父と呼ばれた岩切章太郎氏の「日向の大地をキャンパスにして、理想の絵を描きたい」との理想の下、松林と原野と桑畑だった約 6 万 6,000 ㎡の広大な大地に、「だれもがこどもに」戻って楽しめる場所にをコンセプトとしてつくられました。その後、堀切峠、サボテン園と日南海岸に続く宮崎観光の起点となった場所です。 また、岩切章太郎氏の県内各地を花で彩る取組として、昭和 43 年より 44 年間、毎年春に県内各地の花の施設を結んで行われてきた「みやざきフラワーショー」の主会場の一つでもありました。 現在もその志を引き継ぎ、花旅みやざきの主会場の一つとして今なお人々を花々でもてなしています。

一里山地区　シバザクラ

《概要》
公開場所　宮崎市一里山地区内市道・農道沿い及び個人宅など
入園料金　無料
公開時期　３月下旬～５月上旬
運営者　一里山地区ふるさとづくり推進協議会
来場者数数　約 10,000 人（祭り期間中の約 20 日間）

《主なイベント》
シバザクラまつり（４月）

シバザクラ祭り期間は、地区内がピンクの絨毯でつつまれます。

地区内の農道整備をきっかけに、地区内のある人が「自分たちが毎日通る道だからきれいにしよう。」とシバザクラを植えたところ、その美しさに地区内の多くの家庭や沿道沿いにシバザクラが植え始められました。
シバザクラの植栽が広がるにつれ、その取組を地域活性化に生かしたいとの機運が高まり、平成 19 年に「一里山地区ふるさとづくり推進協議会」を設立し、シバザクラの里づくりによる、まちおこしに取り組んでいます。

シバザクラによって覆いつくされるような美しい景色は、「一里山地区をシバザクラの名所に」という住民の熱い想いにより、苗の生産から植栽、維持管理までの全てを地区で行い、守り育てられています。
シバザクラ祭りの期間中は、県内外から訪れる約１万人の見学客に向け、集落の特産物であるお茶や野菜、苗木などの販売が行われます。
また、多くの人が訪れるようになったことをきっかけに、市内初の民泊もでき、集落内での農業体験やグリーンツーリズムも行われるようになりました。

オープンガーデン　サン・フラワー宮崎

《概要》
公開庭園　96 件（うち、市外 4 件）
入園料金　無料
公開時期　通年
運営者　特定非営利活動法人
オープンガーデン サン・フラワー宮崎
年間入園者数　　－　人

《主なイベント・活動》
庭園公開（通年）
オープンガーデン見学会（不定期）
フローランテ宮崎ボランティア（通年）
まちんなか花壇ボランティア（通年）
宮崎県立病院花壇ボランティア（通年）

中心市街地の花壇ボランティア

オーナーのガイドによる
見学会は大人気

花と緑の愛好家によって平成 13 年に設立されました。
宮崎市の花のまちづくりの推進拠点である「フローランテ宮崎」を中心に、自宅庭の公開、オープンガーデン見学会、ガーデニング研修、寄せ植え講座、県内外の花愛好家との交流、国際交流、公共空間の植栽ボランティアなどの活動を行っています。

宮崎の花とみどりのまちづくりは、岩切章太郎氏をはじめとする民間企業に始まり伸展してきました。
美しく守り育てられた沿道修景や、毎年開催されたみやざきフラワーフェスタ、第６回都市緑化みやざきフェアの開催などの成果は、その後、花や緑を愛する文化として市民に浸透し、オープンガーデンという形で、街のあちこちの家庭で花開いています。
この“花の種”は、再びガーデナーによって公共空間へ運ばれ、自発的なボランティア活動という形で、宮崎のまちに花を咲かせ続けています。

オーナーの個性輝くガーデン

青島ビーチパーク

《概要》
開園面積　0.2 ha
入園料金　無料
公開時期　４月～９月
運営者　渚の交番青島プロジェクト実行委員会
年間入園者数　約 153,000 人

《主なイベント》
各種ワークショップ
・BEACH SIDE CINEMA+FIRE WORKS
・ラウンジパーティー「BREATHER」
（ヨガレッスン＋食事）
・SUNSET PARTY（音楽イベント）など

青島ビーチパークの提案する
「ＡＯＳＨＩＭＡ　ＢＥＡＣＨ　ＳＴＹＬＥ」。
空気の澄んだ朝、ビーチヨガやランニングで汗を流したり
早朝のビーチクリーン、清々しさに笑顔があふれていたり
青い空と白いパラソルの下、旅の本を呼びながらこの先を想像したり
いつもの散歩道、コーヒーを片手に愛犬との時間を楽しんだり
ゆったりと沈む夕日を眺めながら食事を楽しんだり
月夜の下で流れる映画に心奪われたり。
日常時間を日常そのものに変えていくきっかけになるような場所に。

ビーチで過ごす時間が
生活の一部に。
そんなスタイルが青島の
新たなカルチャーと
なっています。

「もっと多くの人に青島の魅力を伝えたい」
「青島のビーチにゆっくり楽しめる場所をつくりたい」
同じ想いの人々が集まり実現した青島ビーチパーク。
思わず足を止めてみたくなるカフェには、真っ白なパラソルの下、手作りの素朴なテーブルセットを囲んで、ゆったりとした時間が流れます。
季節になると、毎年この世界観を共有するボランティアが集まり、設営から楽しみながら汗を流します。
期間中には、様々なイベントも開催され、宮崎青島の新たなビーチカルチャーの発信地として、若者を中心に人気を集めています。

（様式１－７）

実施する事業と実施体制

（１）これまでの取組

「花ボラネットみやざき」は、宮崎の花が最も美しい春を「みやざきフラワーマンス」と称し、民間団体、企業、市民自らが草花の植栽を行う活動の促進と、この取組を県全体に波及させ、市民が誇れる花いっぱいの宮崎を全国にアピールするため、平成 25 年に設立された団体です。

「みやざきフラワーマンス」は、阿波岐原地区、青島地区、橘（中心市街地）地区で実施している、「一ツ葉春の神話めぐり」、「青島まるごとフラワーフェスタ」、「まちんなかフラワーパーク」の３事業を、一体的に広報するなどして効果を高めると共に、宮崎の玄関口である宮崎空港、宮崎駅、宮崎港を「花のエントランス」として、草花飾りやイベント告知看板を設置し、県内外へ広く PR する取組です。

・平成 22 年度～　「春の一ツ葉神話と花めぐり」（阿波岐原地区）
・平成 18 年度～　「青島まるごとフラワーフェスタ」（青島地区）
・平成 17 年度～　「まちんなかフラワーパーク」（橘（中心市街地地区））

（２）今後の取組

春の「みやざきフラワーマンス」の３つの事業と、秋の「オータムフラワーフェス」を、公民連携により、一層効果的に実施するとともに、食、歴史、スポーツ、アクティビティなど、他の地域資源との連携や地場産業の取り込みを促進し、オール宮崎による花と緑の宮崎づくりを推進します。

（１）「みやざきフラワーマンス」
・春の期間中に各地区で実施されているイベントや、食・アクティビティとの連携を促進し、クーポン付「花のパスポート」の利用者の増加を図ります。
①「春の一ツ葉神話と花めぐり」
・神話や歴史のスポットを紹介しながら「阿波岐原」を巡る、「ガイド付きサイクリングツアー」参加者の増加や、花飾りポイントとなる「花飾りスタンド設置箇所」の増加を図ります。
②「青島まるごとフラワーフェスタ」の植栽イベント参加者や設置箇所の増加を図ります。
③「まちんなかフラワーパーク」の市民ボランティアの増加や花装飾の魅力アップを図ります。

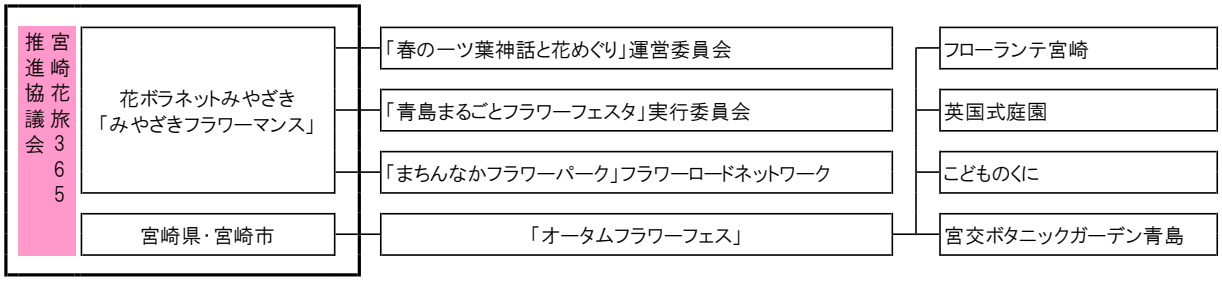
（２）「オータムフラワーフェス」
・参加施設の増加や地場産業との連携を図り、イベントの内容の充実と実施拡大を図ります。
・これまで行政主体の取組から、公民連携により事業の拡充を図ります。

（３）目指す展開
・県内施設への拡大　・交通事業者との連携　・経済効果の検証、・収益還元できる仕組の検討
・持続可能な体制づくりと人材育成。

（３）協議会の構成員

宮崎空港ビル株式会社／宮交ホールディングス株式会社／宮崎交通株式会社／フェニックス・シーガイア・リゾート／九州旅客鉄道株式会社／宮崎カーフェリー株式会社／ANA ホリデイ・インリゾート宮崎／一般社団法人みやざき公園協会／花ボラネットみやざき／NPO 法人オープンガーデンサンフラワー宮崎／NPO 法人宮崎文化本舗／宮交ボタニックガーデン青島／こどものくに／フローランテ宮崎／英国式庭園／日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会／宮崎市観光協会／宮崎県／宮崎市　（※別添規約のとおり）

（４）事業の実施体制



（５）具体的な事業	様式１－８のとおり

（様式１－８）

具体的な事業一覧表

事業名①	みやざきフラワーマンス		
実施主体	花ボラネットみやざき	事業期間	平成 25　年度　～　令和 5　年度
実施施設	フローランテ宮崎・英国式庭園・宮交ボタニックガーデン青島・こどものくに・宮崎空港・宮崎駅・宮崎港他		
事業概要	（目的） ○３つの事業の連携促進と交通拠点を花で飾っておもてなし。 一ツ葉地区「春の一ツ葉神話と花めぐり②」、青島地区「青島まるごとフラワーフェスタ③」、橘地区（中心市街地）「まちんなかフラワーパーク④」 （内容） ○各地区のイベント紹介と協賛店舗のクーポン付「宮崎花のパスポート」の作成。 ○花いっぱいのみやざき写真コンテストの開催。 ○宮崎空港・宮崎港・宮崎駅を花で飾る「花のエントランスンス」の実施。 ○オータムフラワーフェス(宮崎市事業)との連携。		
事業名②	春の一ツ葉神話と花めぐり		
実施主体	春の一ツ葉神話と花めぐり運営委員会	事業期間	平成 22　年度　～　令和 5　年度
実施施設	フローランテ宮崎・英国式庭園・フェニックスシーガイアリゾート・市民の森・県立阿波岐原森林公園		
事業概要	（目的） ○一ツ葉地区の連携による地域の魅力紹介とおもてなし空間づくり。 （内容） ○地域の店舗や住民が「花飾りスタンド」を設置し「花の街」を演出。 ○花飾りスポット、神話ゆかりの地、散策モデルコース、サイクリングツアーコース等を紹介する「周遊ガイドマップ」の作成配布。 ○神話、歴史、花を巡る「ガイド付きサイクリングツアー」の開催。 ○神話、花にちなんだクイズを出題し地域をめぐる「クイズラリー」の開催。 ○「みやざきフラワーマンス」のクーポン付「花のパスポート」への協賛。（周辺カフェ、英国式庭園、県立阿波岐原森林公園、みやざき臨海公園など）		
事業名③	青島まるごとフラワーフェスタ		
実施主体	青島まるごとフラワーフェスタ実行委員会	事業期間	平成 18　年度　～　令和 5　年度
実施施設	青島参道前県道交差点・青島参道商店街・こどものくに前・青島参道南広場		
事業概要	（目的） ○青島地区の連携による地域の魅力紹介とおもてなし空間づくり （内容） ○「青島を訪れる観光客の皆様を花いっぱいで、お出迎えしよう！」をスローガンに、地域のボランティアによる青島入口交差点周辺を花飾り。 ○「みやざきフラワーマンス」のクーポン付「花のパスポート」への協賛。（宮交ボタニックガーデン青島、こどものくに、ANA ホリデイ・インリゾートなど）		

事業名④	まちんなかフラワーパーク		
実施主体	フラワーロードネットワーク	事業期間	平成 17　年度　～　令和 5　年度
実施施設	橘通り１丁目～３丁目・四季通り・若草通り・駅前通り・一番街他		
事業概要	（目的） 〇市民ボランティアによる春と秋の中心市街地おもてなし空間づくり。 （内容） 〇「春」は、ゴールデンウイークに開催される宮崎国際音楽祭に合せ、国・市・商店街や市民ボランティアが連携し、国道 220 号（橘通り）の花壇や商店街を花で彩る。 〇「秋」は、10 月下旬に行われる宮崎神宮大祭（神武さま）やオータムフラワーウィークの開催に合せ、宮崎のメインストリート橘通りの花壇や商店街を花で彩る。 〇「みやざきフラワーマンス」のクーポン付「花のパスポート」への協賛（宮崎観光ホテル）		
事業名⑤	オータムフラワーフェス		
実施主体	宮崎市	事業期間	平成25　年度　～　令和 5　年度
実施施設	フローランテ宮崎・英国式庭園・宮交ボタニックガーデン青島・こどものくに、ほか		
事業概要	（目的） 〇花の拠点施設の連携による秋の花の祭典。 （内容） 〇秋の花の美しい季節に花の施設同士を結び、おもてなしの花修景や体験講座を行うとともに、期間中に実施される魅力的な花のイベント等を紹介し「ガーデンｼﾃｨみやざき」の秋を華やかに演出する。 ・花と緑の体験講座、花卉生産者タイアップイベント、地域の花畑プロジェクトなど 《拠点施設のイベント》 ・オープンガーデン見学会⑦　（オープンガーデンサンフラワー宮崎） ・秋のフローラル祭⑨　（フローランテ宮崎） ・秋のフラワーガーデンショー⑩　（英国式庭園） ・秋のバラ祭り⑫　（こどものくに） ・秋のフラワーショー⑬　（宮交ボタニックガーデン青島）		
事業名⑥	今昔バラ園物語ガイドツアー		
実施主体	ときどき花くらぶ	事業期間	平成30　年度　～　令和 5　年度
実施施設	こどものくに　※こどものくには今年開園 80 周年		
事業概要	（目的・内容） 〇岩切章太郎氏が「花の宮崎」「香りの宮崎」を体現し力を注いだ「こどものくにバラ園」を、岩切氏の景観思想や宮崎への思いを体験しバラ園の歴史と未来を語りながら、「今昔」ガーデナーと回るガイドツアー。 ※参考 ・バラ園ガイド〔今〕源香氏（こどものくにヘッドガーデナー） ２年前よりバラ園の管理ボランティア「ときどき花クラブ」との協働を図りながら、新しいバラ園での交流や楽しみ方の発信を行っている。 ・バラ園ガイド〔昔〕川越　健氏（元こどものくに庭園管理係長） 当時、熱帯スイレン、バラ、椿の管理を岩切章太郎氏から直接指導を受けている。現在も岩切章太郎氏の志を伝えるため、講習会等で指導を行っている。		

事業名⑦	オープンガーデン見学会		
実施主体	NPO 法人オープンガーデンサンフラワー宮崎	事業期間	平成15　年度　～　令和５　年度
実施施設	個人庭　（公開庭園 96 件（うち市外４件））		
事業概要	（目的） 〇個人の庭を公開することによる交流の促進とガーデニング技術の向上 （内容） 〇個性あふれる素敵なお庭のオーナーから、直接ガーデニングのコツを聞きながら、個人庭＆フロ-ランテ宮崎をバスで周遊。 〇サンフラワー宮崎の会員による多肉植物寄植づくりのワークショップ。 ※宮崎市主催の秋のイベント「オータムフラワーフェス」の協力イベント。		
事業名⑧	はなしょうぶまつり		
実施主体	（一財）みやざき公園協会	事業期間	昭和54　年度　～　令和５　年度
実施施設	市民の森		
事業概要	（目的） 〇約 20 万本のはなしょうぶによる初夏（５月～６月）の園内をしっとりと演出。 （内容） 〇はなしょうぶライトアップ・キャンドルナイト。 はなしょうぶ園をライトアップや約 1000 個のキャンドルを来園者ともに点灯。 〇はなしょうぶすごろく：市民の森、周辺施設を回遊するスタンプラリー。 〇はなしょうぶ展示・セミナー：はなしょうぶの品種展示、育て方などのセミナー。 〇はなしょうぶガイドツアー：市民の森スタッフが、はなしょうぶ園をめぐりながら、はなしょうぶの特性・鑑賞方法・栽培などについて学ぶツアー。 ※同じ時期にスイレンも見頃を迎えるため、写真家たちの撮影スポットとしても人気。		
事業名⑨	春のフローラル祭・秋のフローラル祭		
実施主体	フェニックス動物園管理株式会社	事業期間	平成12　年度　～　令和５　年度
実施施設	フローランテ宮崎		
事業概要	（目的） 〇花と緑と人の交差点フローランテ宮崎がお届けする花の祭典。 （内容） 〇春のフローラル祭　（３月上旬～５月下旬） １年で最も美しい春、宮崎生まれのコチョウランやラックスと、約 50 品種約 10 万球のチューリップなどの花々が春を演出。 ・宮崎コチョウラン展　・チューリップセンセーション・ラックスガーデン AYA ・京成バラ園 Premium Rose Garden・バウンスの森 〇秋のフローラル祭　（10 月上旬～11 月上旬） 秋の宮崎を色鮮やかなマリゴールドやサルビア、コスモス等、約 40 品種約 20,000 株の花が演出。 ・オータムガーデン　・京成バラ園（秋バラの園）		

事業名⑩	春のフラワーガーデンショー・秋のフラワーガーデンショー		
実施主体	（一財）みやざき公園協会	事業期間	平成22　年度　～　令和５　年度
実施施設	英国式庭園		
事業概要	（目的） 〇本格的な英国式庭園による春と秋の花の演出。 （内容） 〇春のフラワーガーデンショー　（３月上旬～５月下旬） チューリップやビオラ、ダイアンサス、ジキタリスなど約4,500株の草花が次々と咲き、松林と調和した春の空間を演出。 ・英国式庭園20周年記念パネル展示　・イースターエッグハント ・グリーン＆ガーデンマーケットin英国式庭園他 〇秋のフラワーガーデンショー（10月上旬～11月上旬） 本格的な英国式庭園を、ケイトウ・マリーゴールド・コリウスなど、色鮮やかな秋の草花が秋の空間を演出。 ・コーラス花壇　・中庭ブロカント　・植物販売会他		
事業名⑪	FLOWER LIVING　～春のガーデンパーティー ～		
実施主体	フェニックス・シーガイア・リゾート	事業期間	平成30　年度　～　令和５　年度
実施施設	シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート		
事業概要	（目的） 〇シェラトン・グランデ・オーシャンリゾートに隣接する水辺のリビング「THE LIVNG GARDEN（ザ・リビングガーデン）」。"春のガーデンパーティー"をデザインテーマに、花いっぱいのお庭でパーティーを楽しんでいるような空間や水上花壇など、シーガイアならではの彩り豊かでフォトジェニックな空間を演出。 （内容） ・フラワーマーケット＆ワークショップ ・「風待ちテラス」のピクニックバスケット ・飲食店も春を感じる花をイメージしたメニューを展開。 ※「風待ちテラス」とは。宮崎旅の"はじまり"と"息継ぎ"のためのテラス。旅の本を片手に、これから始まる旅に思いをはせたり、旅の思い出にふける場所。		
事業名⑫	春のバラまつり・秋のバラまつり		
実施主体	宮崎交通株式会社	事業期間	昭和35　年度　～　令和５　年度
実施施設	こどものくに		
事業概要	（目的） 〇「ときどき花クラブ」の皆さんにより復活した岩切章太郎の思いの詰まったバラ園祭り。 〇春のバラまつり ・薄紫の大輪「ノヴァーリス」、薄紫の中輪「オーキッドロマンス」など、草花を混色しながら250種2,000株のバラが咲き乱れるローズガーデンを演出。 ・青島ハンモックや雑貨販売実施。 〇秋のバラまつり ・セージや千日紅などかわいらしい草花を組みあわせ秋のローズガーデンを演出。 ・庭育ワークショップ　・ときどきバラマルシェ ・Gardenの植物を使ってのワークショップ　・チョキチョキバラ摘み　ほか		

事業名⑬	春のフラワーショー・秋のフラワーショー・真冬のフラワーショー		
実施主体	（一財）みやざき公園協会	事業期間	平成19　年度　～　令和５　年度
実施施設	宮交ボタニックガーデン青島		
事業概要	（目的） 〇亜熱帯性など特有の植物による花の祭典。 （内容） 〇春のフラワーショー　（３月上旬から５月下旬） ・キンギョソウやペチュニア、早咲きのブーゲンビリアやチューリップが園内を演出。 ・オーガニックナチュラルな暮らしを提案する日曜市「青島サンデーマーケット」の開催。 〇秋のフラワーショー　（10 月上旬から 11 月上旬） ・秋に咲くブーゲンビリアのマウンテン。また、パパイヤやバナナ、ハイビスカス等花壇で園内を演出。 ・「植物販売会」やスタッフによるブーゲンビリア栽培経験者を対象とした「ブーゲンビリア管理講習会」等の開催。 〇真冬のフラワーガーデンショー（1 月上旬から２月中旬） ・ストック、アリッサム、パンジー、アイスランドポピーなど約１万株の花が園内を演出。		

庭園間交流連携促進計画

宮崎花旅 365

2019（令和元）年 5 月

宮崎花旅３６５推進協議会